

# この人もチェック！

## 作次郎の妻、大久保婦久子は革工芸家

大久保婦久子（1919～2000）は、日本にはなじみの薄かった皮革工芸で独自の技術・技法を開拓し造形の可能性を広げました。アクセサリから壁画まで幅広く、芸術性の高い作品を数多く世に送り出し高い評価を受けた皮革造形の第一人者です。

昭和 27 年（1952）の日展初入選以降数々の賞を受賞しました。母校の女子美術大学には奨励賞制度の一つとして大久保婦久子賞があり、美術研究の優秀な学生に授与されています。

生まれ故郷である静岡県下田市は、その功績を讃えて、平成 12 年（2000）名誉市民の称号を贈りました。



『大久保婦久子展』より



『流砂』



『大久保婦久子の世界皮革造形の神秘』  
大久保婦久子/著



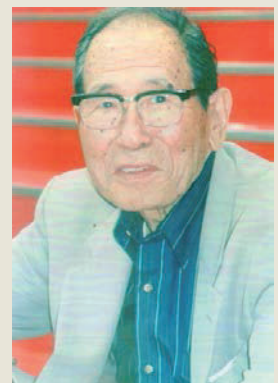
### 婦久子の業績

- 1981 年 現代工芸美術家協会にて、内閣総理大臣賞を受賞。
- 1983 年 日本芸術院賞・恩賜賞を受賞。
- 1985 年 日本芸術院会員に推挙され、作次郎に続き夫婦で会員となる。
- 1986 年 日展常務理事に就任。
- 1995 年 文化功労者に顕彰される。
- 2000 年 文化勲章を受章
- 11 月 4 日、文化勲章親授式の翌日、体調不良により急逝。享年 81 歳。

## 作次郎に影響を受けた同郷の俳人・鈴木六林男

現代俳句に大きな足跡を残した俳人・鈴木六林男（1919～2004）も内畑町出身で、幼少期に同郷の作次郎の影響で絵画に興味を持つようになりました。

その後は、文学書をたくさん読み、俳句を雑誌に発表するまでになり、俳句の道にすすみます。六林男は生涯、戦争や社会不条理に対する怒りや、額に汗して生きるものにそそぐ人間愛などをテーマに俳句を作りました。のちに、現代俳句大賞の受章となり、俳句界で高くその功績が評価されました。



宮川家提供